

清流 ニュース

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp.org/

平成三十年度総祈願
本年、度、教化、善願、達成
高祖、日蓮、大士、ご降誕、八百年、慶讃
教化、法灯、相続、つづれ、織り、運動、推進
創建、七十周年、記念、事業、御有志、奉納、成就、之、御願
教務、区、再、編、成、御、奉、公、成、就
教務、員、増、強、役、中、後、継、継、者、養、成

清流寺創建七十周年記念事業
御有志奉納者氏名
(その三)
(教区順、敬称略、順不同)
平成三十年四月二日現在

五月の御総講日

一日 九時半 御修行日
七日 十時 バースデー総講
日序上人報恩祈念
十三日 十時 高祖御命日
十七日 十時 開導御命日
廿五日 十時 門祖御命日
於 清流寺

5月6日 10時30分 当山草創 佛立第八世講有日歡上人御会式 羽村別院にて奉修 奉修導師 当山住職

来る六日(日)十時三十分より、第八世講有日歡上人の御会式(歡尊会)が、羽村別院にて奉修されます。
第八世日歡上人は、明治廿七年(一八九四)七月一日に第二世講有日聞上人より剃刀をうけ得度されました。
当山は、この日歡上人を、「当山草創」とお敬い申し上げます。年に一度、羽村別院に於て報恩の誠を捧げる意味から「歡尊会」を奉修させていただきます。

と尊称申し上げております。私共の本寺(親寺)とも申しますが、乗泉寺の歴史は古く、江戸時代から本門法華宗の一寺院として存在してまいりました。
日歡上人が、この乗泉寺のご任職に就任された当時は、寺とは名ばかりで、荒れ放題だったといわれています。
前の住職は逐電(にげてゆくえをくらすこと)してしままい無任状態(任職がいない)でしたから、本堂は雨漏りし、畳はボロボロ、勿体なくも内陣には鼠(ネズミ)が

出入りし、御尊像のご礼盤は塔婆で打ちつけ、想像を絶する状態でした。
このような状況の中を上人は、毎朝三時に起床され、七時迄、一万遍の口唱を重ねられたと伝えられており、その上人の熱意が、旧檀家にも通じて、今度の住職はやる気がある。朝参詣も二人、三人と増えるようになり、ご利益も盛んに顕われるようになってご弘通が発展してまいりました。
日歡上人のご信念とも伝えられているご信条とも申すべきことをご披露させていただきますと、
一、私は、日本国中、誰にも負けないように御弘通をさせて頂こう。

この三つを心に誓われご奉公遊ばされ、あの大乗泉寺の基礎を築かれたのであります。申すまでもなく、当山清流寺も、日歡上人の薫董を受けているのですから、日歡上人への報恩の志をもって歡尊会にお参詣させて頂きましょう。

特別行事

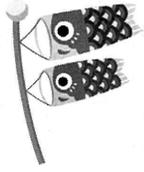
六月 十時三十分 開式
佛立第八世講有日歡上人御会式
於 羽村別院

晴天祈願

四月廿九日(五月五日)
第一座 六時
第二座 九時半
會議
一日 御総講後 役中會議
廿五日 御総講後 ブロック長會議 教区長會議 参事會
廿六日 午後二時

同帰亭要語録

御弘通の苦勞



極楽百年の修行は穢土の一日の功に及ばず。正像二千年の弘通は末法の一時に劣るか。是はひとへに日蓮が智のかしこきにはあらず。時のしからしむるのみ
(報恩抄縮1509)

極楽というところは清浄であり、安穩でありますから、何もの妨げもありません。

げもうけず、たとへ、百年の間修行を重ねても極めて易々たるものであると云えます。然るに此の娑婆世界は穢土と申して、人々の心は殊に險悪ですから、此処で正法を弘めようとすると、必ず、種々の迫害が集まってくるということになります。ですから、この娑婆

の一日の御奉公は、極楽に於ける百年の修行よりも、遙かに苦勞が多いということになります。併し乍らこの穢土にお題目が弘まれば、浄土と成るわけですから、唯一日でも迫害に堪えて、御弘通の御奉公につとめれば、まことに大きな功德を種まきました事になるのであります。仏滅後二千年の間、即ち正法千年、像法千年の時は、人の心も邪悪になつていないときですから難にあつたと申しても末法の世とは比ぶべきものではありません。天台大師でも伝教大師でも、死を以て脅かされるとい

うような目に遭われなかつたわけでは、然るに末法はお経文に「恐怖悪世」と説かれてありますように、法華経を弘むる者には、あらゆる危険が集まってくることにあります。宝塔品には
「諸々ノ善男子各々諦力ニ思惟セヨ。此ハ為レ難事ナリ。宜シク大願ヲ発スベシ」
と、示されるのであります。一身を犠牲にしてでも仏恩に報ずる為に、御弘通の御奉公をさせて頂こうという決定でなければ到底堪えられないのです。併し、苦しみが多いだけその功德は深く、法

師品には
「応ニ如来ノ供養ヲ以テ之ヲ供養スベシ」とまでこの決定の人をたゞえられてあります。天台、伝教等よりも多く迫害に遭われ、それだけに、より多くの功德が積めたというので
「法華経の肝心、諸仏の眼目たる妙○経の五字、末法の始めに一間浮提に弘まらせたまうべき瑞相に日蓮さきがけしたり。和党共、二陣三陣つゞきて迦葉阿難にもすぐれ天台、伝教にも超えよかし」
(種々御振舞御書1389)

と、仰せられているのであります。御教歌に
「菩薩とは在家出家にか、はらず人を助くる人をいふ也」と示されてあり、形は人間だが、その心は菩薩ということになります。お互い御信者が、日々御弘通に励んでいるのは菩薩行をしているわけで、菩薩行をしている人は即ちその心は菩薩ということになります。
お祖師様が「二陣三陣つゞけよかし」と仰せられてあるのは、菩薩行に励んで、仏果の頂けるような御信心をせねばならぬとお示し下さられたのであります。

日歡上人が、この乗泉寺のご任職に就任された当時は、寺とは名ばかりで、荒れ放題だったといわれています。
前の住職は逐電(にげてゆくえをくらすこと)してしままい無任状態(任職がいない)でしたから、本堂は雨漏りし、畳はボロボロ、勿体なくも内陣には鼠(ネズミ)が

出入りし、御尊像のご礼盤は塔婆で打ちつけ、想像を絶する状態でした。
このような状況の中を上人は、毎朝三時に起床され、七時迄、一万遍の口唱を重ねられたと伝えられており、その上人の熱意が、旧檀家にも通じて、今度の住職はやる気がある。朝参詣も二人、三人と増えるようになり、ご利益も盛んに顕われるようになってご弘通が発展してまいりました。
日歡上人のご信念とも伝えられているご信条とも申すべきことをご披露させていただきますと、
一、私は、日本国中、誰にも負けないように御弘通をさせて頂こう。

五月は、歡尊会奉修の為に八日から十二日までの五日間を朝参詣強調週間と致します。
五月八日(火) 小平教区
九日(水) 小金井教区
十日(木) 大和教区
十一日(金) 昭島教区
十二日(土) 東村山教区

朝参詣強調週間
五月八日(火) 小平教区
五月九日(水) 小金井教区
五月十日(木) 大和教区
五月十一日(金) 昭島教区
五月十二日(土) 東村山教区